

< 課程博士論文の審査基準等 >

課程博士論文は、博士後期課程修了時に学位授与申請のために提出する論文です。申請にあたっては、次の基本要件を満たしていなければなりません。

(1) 課程博士論文は、当該専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すものでなければならない。

(2) (論文提出のための条件) 課程博士論文を提出するためには、既発表論文2篇(うち1篇は査読付き学会誌・専門誌に掲載されたもの)以上の研究実績を有しなければならない。

(3) (評価基準) 課程博士論文は、以下の各項目について、当該専門分野における高度な水準を満たさなければならない。

(a) 研究課題(テーマ)の学術的意義

明確な問題意識に基づき、当該専門分野における研究の学術的意義が述べられていること。

(b) 研究課題の的確性

研究目的に応じた的確な課題が設定されていること。

(c) 研究方法の妥当性

研究を遂行する上で、適切な研究手法が用いられていること。

(d) 先行研究との関連

当該専門分野における主たる先行研究を踏まえたものであること。

(e) 資料利用の適切性

論旨を展開するうえで、実験結果、調査結果、文献資料などが適切に用いられていること。

(f) 論旨の一貫性

論旨が、論理的に組み立てられ、一貫して展開されていること。

(g) 学術論文としての体裁

表現、表記法などが学術論文として適切であるとともに、当該専門分野の慣例に従ったものであること。

(h) 研究倫理の遵守

研究の目的、遂行過程、成果発表のそれぞれについて、当該専門分野が定める研究上守るべき倫理基準が満たされていること。

(i) 当該専門分野への学問的貢献

当該専門分野における研究の発展に貢献しうるものであること。

(4) (論文の分量) 課程博士論文は、12 万から 20 万字程度の分量がなければならない。

なお、英語による課程博士論文については、日本語 2,000 字を 1,000words に換算することとし、日本語の場合の 12 万から 20 万字程度の分量がなければならない。また、英語以外の外国語による課程博士論文については、研究指導教員と合議のうえ各言語の特性を踏まえて日本語と当該外国語の換算を提示することとし、日本語の場合の 12 万字から 20 万字程度の分量がなければならない。

(5) (その他) 課程博士論文執筆にあたっては、研究指導教員より十分な指導を受けなければならない。なお各専修において、それぞれの研究分野の学問状況に応じ、上記基本要件以外に追加的な条件を定めることがある。